

日本音楽集団

PRO MUSICA NIPPONIA



第151回 定期演奏会

コンポーザーズ プロジェクト シリーズ I

廣瀬量平氏からのメッセージ《雷舟讃》

Composer's project series 1

1998年5月18日(月)午後7時開演

津田ホール

主催：日本音楽集団

〒151-0073 東京都渋谷区笹塚3-17-1滝沢ビル302

TEL 03-3378-4741 FAX 03-3376-2033

URL <http://www.bekkoame.or.jp/ro/promusica>

E-Mail promusica@ro.bekkoame.or.jp

助成：文化庁・日本芸術文化振興会

舞台芸術振興事業

財団法人 ローム ミュージック ファンデーション



Arts Plan 21



芸術文化振興基金

プログラム

- 一、壽（ことほぎ）より第一章〈言問い〉（1995年） 廣瀬量平作曲
[箏] I山田 明美 II桜井 智永 III城ヶ崎美保 IV嶋崎 光代
[十七絃] I大島菜穂子 II早川 智子

- 二、クリタ～二面の箏のための（委嘱・初演） 中村典子作曲
[箏] I宮越 圭子 II熊沢栄利子

- 三、アキ～二つの尺八のための（1969年） 廣瀬量平作曲
[尺 八] I加藤 秀和 II三橋 貴風

- 四、瓊（よう）～箏独奏のための“十段”（1972年） 廣瀬量平作曲
[箏独奏] 吉村 七重

— 休 憩 —

- 五、雪舟讃 I（委嘱・初演） 廣瀬量平作曲
[笛] 西川 浩平
[尺 八] I水川 寿也 II添川 浩史 III石田 忠史
[琵琶] 田原 順子
[箏] I山田 明美 II桜井 智永
[十七絃] 宮越 圭子
[打楽器] 尾崎 太一・望月太喜之丞・白杵美智代・立枝 恵子
[指 揮] 田村 拓男

- 六、夢十夜（1973年） 廣瀬量平作曲
[笛] 西川 浩平
[尺 八] I水川 寿也 II三橋 貴風 III加藤 秀和
[琵琶] 田原 順子
[三味線] 細棹=杵家 七三 太棹=工藤 哲子
[箏] I吉村 七重 II熊沢栄利子
[十七絃] 宮越 圭子
[打楽器] 黒坂 昇・望月太喜之丞・白杵美智代・立枝 恵子
[指 揮] 田村 拓男

今回のプロジェクト〈雪舟讃〉のこと

廣瀬量平

雪舟（1442-1506?）は、室町時代の人、水墨画の巨匠として比類のない才を持ち、修業のため中国に渡ったが師事すべき人に出会わなかったにもかかわらず、かえって絵師としても僧としても最高の評価と地位を得て帰国した。しかし日本での評価は必ずしも高くなかった。しかし名利を求めず利を求めぬ漂泊の人でもあり、京、九州、山口をはじめ、東北、関東、山陽、山陰、丹後、周防…と漂泊し定住して80代を越えるまで精力的に画いた。禅の思想の表現として作庭した庭も各地に少なからず残っている。その頃、日本の画家が中国から伝わった水墨画を模倣して、見たこともない大陸の景色を中国人のように画くことがよしとされていたのに対し、雪舟は大陸に行つてはじめて水墨画に画かれているような自然が現実にあることを発見し、それを自分の眼で見た通り正しく画くことをはじめ、黙々と多くの仕事を残し、中国とちがう日本の自然を水墨画ではじめて描いた人ともなった。そして1956年レンブラント、モーツァルト、ハイネ等と共に世界文化貢献者10人の中に選ばれた。こういう雪舟を今回のプロジェクトのテーマとして選んだのは日本音楽集団の仕事とかかわるように思えたからであるが、もう一つ、この集団の創立メンバであり代表である指揮者の田村拓男さんが島根県益田の出身であるのを知ったからでもある。益田は雪舟最期の地ともいわれ、雪舟作の庭が二つも現存するゆかりの地なのだ。



言問い

箏群の合奏による対話。1995年NHK邦楽技能者育成会40周年記念としてNHKの委嘱を受け作曲、NHK大ホールに於いて大合奏により初演された〈壽〉（ことほぎ）4章の中の第一曲である。ちなみにその第二曲は二絃二群と琵琶による〈まろばい〉、第三曲は尺八群による〈ぬばたま〉、第四曲は全楽器による〈なおいらい〉である〈言問い〉とは在原の業平の「名にしおはばいざ言問わん都鳥…」の歌のように質問の意味で、ここでは箏群による挨拶のような意味に使われてお互いの消息をたずね合うおめでたい開会の音楽のつもりで作曲した。

クリタ～二面の箏のための

題名の「クリタ」は地名で、漢字で栗田と表記し、琵琶湖の南部、湖東平野に位置する少なくとも7世紀頃からつい最近までそう呼ばれてきたクリタなる土地に私は生まれ、そして今も暮らしてる。昨年私は、ある奨学金を受けて前から惹かれてきた韓国を訪れた。その奨学金は東洋と西洋の両方の音楽に関わる仕事をした人、あるいはしようとする人に支給されるもので、大陸に連なるこの地の乾いた空気の中で伽椰琴（カヤグム）や玄琴（コムンゴ）、牙琴（アジェン）など、日本とは違った箏族の響きを多く聴き、触発されるものがあった。私には、日本の箏や尺八の音もまるで江戸期以来の都会の音楽のように聴こえていて自分との接点が見つけられなかったが、今回初めて箏のために作曲しようかとおもいたった。ちょうどその時、かねてから尊敬していた日本音楽集団からこのような機会を与えられ、大変感謝している。

（中村典子）

アキ～二つの尺八のための

この曲は1969年つまりおよそ30年前、山本邦山と横山勝也によって初演されて以来、多くの演奏家によりしばしば演奏されている。1969年の初演のプログラムには、アキ即ち秋はまた明晰（めいせき）につながるあきらか、のアキでもあると書いた。前作、尺八奏者二人のための〈ハレ〉（1969）の春との対比の意もあり対照的な二重奏曲である。山本邦山委嘱作、山本邦山リサイタルで初演、全音楽譜より出版、リコーダー編曲版もある。

瓔

1973年、高畑美登子十三絃箏リサイタルのために作曲、初演された。この曲は〈箏独奏による十段〉とのサブタイトルがある。これも私の第一回のインド行きの直後に作曲したものであり、EMIのレコードにもある。近来この曲も多くの人に演奏されている。瓔とは瓔珞（ようらく）と重ねられることも多いが、装身具の意味である。彼女はこのリサイタルにより文化庁芸術祭優秀賞を得た。

雪舟讃 I

今回の委嘱作品。雪舟は三絃が日本に伝わって広まるはるか前の人故に三絃は省いた。彼は作画に入る前に尺八を吹定したとの言い伝えもある通り、この楽器は禅の法器でもあった。山口の瑠璃光寺、同じくアトリエのあった雲谷庵、光市の普賢寺の庭、相国寺をはじめとするゆかりの地や、多くの水墨画や書に接し、圧倒されつつ、とりあえずこの（I）を作曲した。

夢十夜

〈夢十夜〉は夏目漱石の特異な作品と同名であるが、曲は漱石の作品のように十章あるわけではない、必ずしもその作品の説明でもない。漱石はエリートとしてイギリスに学びながら日本の一直線の西歐化には疑問を感じていたようだ。日本の伝統と西洋文明との接触にかかわる様々な矛盾と葛藤がこの不思議な夢の背後にあるテーマだとしたら、その点についてはまさに共通している。4つの楽器群に分かれる14の楽器は、さながら14声部の多声音楽のように個別行動をしつつ、同時に複数の小ドラマを常に同時

に重層して発生させつつ次第に川幅を広めて行く。最後は大太鼓の静かな連打で終わるが、これは歌舞伎の下座音楽では雪をあらわすことになっている。ニューヨークをはじめとする集団の海外公演や、国内でも文化庁芸術祭の開催式典に国立劇場で演奏されたりしたこともあった。更に1994年集団創立30年に際して、これまでの委嘱作品のなかから批評家によって特に選ばれて上演された。1972、73年は私のインドに由来した作品群が発表された年であるが、並行してこの作品を作曲していたことになる。

廣瀬量平プロフィール

1930年 北海道函館に生まれる
 1953年 北海道大学卒業
 1959年 東京芸術大学卒業
 1961年 同専攻科終了。筒井秀武、池内友次郎に師事
 1969年 レコード廣瀬量平尺八作品集〈日本の尺八1969〉により芸術祭優秀賞、後72、73、76、78年にも同賞受賞
 1977年 尺八協奏曲によりNHK交響楽団より尾高賞受賞

1997年 紫綬褒章受章
 1977~96年 京都市立芸術大学教授
 1979~83年 日本現代音楽協会委員長
 1991~98年 東京芸術大学講師
 1997年~ 同志社女子大学講師

作品は〈ヴァイオリン協奏曲〉〈チェロ協奏曲〉、〈クリマ〉〈カラヴィンカ〉等のオーケストラ曲を始め広ジャンルにわたっている。

廣瀬量平邦楽器作品表

トルソ〈箏2、三絃、尺八、チェロ〉	1963	夢明(むみょう)〈尺八、打楽器〉	1976
尺八と弦、打楽器のためのコンポジション		秋篁(しゅうこう)〈尺八2、竹打楽器〉	1978
〈尺八3、弦楽4、打2〉		悼歌(とうか)〈十七絃〉	1978
1、霹(へき) 1964 2、燎(りょう) 1966		ひな〈尺八4〉	1979
3、湫(しゅう) 1969 4、飛(ひ) 1969		「みだれ」による変容〈十七絃〉	1980
ハレ〈尺八3〉	1969	魂ふり(たまふり)〈尺八〉	1982
アキ〈尺八2〉	1969	十六夜(いざよい)〈尺八、箏〉	1983
まきむく〈箏2、十七絃、尺八〉	1971	月魄(つきしろ)〈ヴィオラ、箏〉	1986
渺(びょう)〈尺八〉	1972	夢幻帖(むげんぎぬた)〈箏〉	1986
嚶(よう)〈箏〉	1972	壽(ことほぎ)	1996
八幡野〈箏2、十七絃、尺八〉	1973	1、ことといく箏群> 2、まろばい<二絃群、琵琶>	
夢十夜〈笛、尺八3、琵琶、三味線2、箏2、十七絃、打4〉	1973	3、ぬばたま<尺八群>	
ヴィヴァルタ〈尺八、チェロ、打、児童合唱〉	1973	4、なおらい<箏群、三絃群、琵琶、尺八群>	
彩〈尺八、チェロ、打楽器〉	1973	南冥曉歌(なんめいぎょうか、)	1998
鶴林(かくりん)〈尺八〉	1973	<篠笛及び能管、尺八、十七絃、打楽器>	
雪綾〈箏2、十七絃、尺八〉	1975	雪舟讃 I <笛、尺八2、琵琶、箏2、十七絃、打4>	1998
尺八協奏曲〈尺八、オーケストラ〉	1976		

中村典子さんのこと

中村さんは琵琶湖畔で生まれ育ち、京都とドイツに学び、今、烈しい創作意欲に燃えて次々と意欲的な作品を発表しつつある人です。今回邦楽作品は初挑戦ですが、彼女の作り出す音は濃密な表出力をもちつつ、堅固な構成をもち、しかもそれがパワフルです。必ずや期待に応えてくれるでしょう。(廣瀬量平)

中村典子プロフィール



1965年滋賀県生まれ。京都市立芸術大学音楽学部作曲専修卒業、同大学院修了。京都音楽協会賞、大学院賞受賞。プレーメン芸術大学へ留学。廣瀬量平、北爪道夫、前田守一、藤島昌壽、田島亘、H・J・カウフマン、ジルバール・アミの各師に師事。日本、ヨーロッパ、アメリカ、メキシコ等で作品上演。平成9年度小倉理三郎音楽奨学金第1回受給者。日本現代音楽協会、日本作曲家協議会会員。現在、京都市立芸術大学専任講師。

日本音楽集団「コンポーザーズ・プロジェクト・シリーズ」への期待

石田一志（評論家）

新春に記念すべき第150回定期演奏会を開催し、創立34年を迎えた日本音楽集団が、来世期への新しい更なる活動の展開を意図して、今回の第151回定期を機に新企画「コンポーザーズ・プロジェクト・シリーズ」を発足させる。周知の通り、日本音楽集団は日本楽器の音楽世界を広い見地から捉え直し、その魅力を多角的に探求するために流派や楽器の違いを超えて集まったグループである。



日本音楽の歴史では互いに疎遠な関係に置かれてきた、劇場音楽と非劇場音楽、芸術音楽と民俗音楽、宗教音楽と世俗音楽の諸楽器が、このグループ活動のなかで斬新な遭遇の機会を得、そして全く前例のなかったさまざまなアンサンブル形態を産みだし、さらに日本楽器によるオーケストラと形容される大アンサンブルの標準編成まで確立したのだった。もちろん、これらの新しい楽器編成の音楽的魅力を引き出すためには、古典的音楽の優れた編曲もそうだが、なによりも必要なのはその編成の音楽的な必然性を一層明らかにする優れたオリジナル作品であることは論を待たないことである。幸いなことに、集団は当初から開拓者としての気概と使命感をもった三木稔と長沢勝俊というそれぞれ作風の異なる優れた作曲家たちの作品を中心にレパートリーを着実に増やしてきた。さらに集団は、作品公募をおこなったり、内外の世代的にも作風の上でも幅広い作曲家たちへの作品委嘱を積極的におこない初演を繰り返してきた。例えば1983年の第3回作品公募での中村滋延や86年の第6回の新実徳英の第1位など作曲家の発掘にも成功しているし、委嘱作品にも佐藤敏直の〈ディヴェルティメント〉、廣瀬量平の〈夢十夜〉、杵屋正邦の〈史魂〉、池辺晋一郎の〈天点譜〉や〈竹に同じく〉、安達元彦の〈邦楽器のためのシャコンヌ〉、吉松隆の〈弥勒効果〉などレパートリーに定着した作品から、西村朗の〈巫幻楽〉のような日本楽器の音響的極限を追求した実験的な問題作に至るまで、実に多彩な作品が誕生したのだった。

今回の新企画日本音楽集団「コンポーザーズ・プロジェクト・シリーズ」は、一夜の演奏会の企画・構成など全てを一人の作曲家に全権委嘱するというものである。つまり従来の作品委嘱のように作曲だけでなく、一夜の演奏会の内容には限られるものの、音楽監督の任も委嘱するという全く新しい制度である。日本でも、オーケストラ・アンサンブル金沢や東京交響楽団が特定期間作曲家と契約を結び身内に引き入れて作品を求めたりアドバイスを求める欧米風のコンポーザー・イン・レジデンスの制度を採用しているが、それよりも具体的な成果が期待できるのではないかと思う。私が思うには、個々の作曲家たちはきっと全権を任せられた演奏会において、それぞれに自分の思い描く集団のあるべき音楽像を具現しようと試みてくれるであろう。それは我々聞き手にとってだけでなく集団自体にとって大きな刺激となるはずである。また一夜の演奏会は作曲家にとって広義の作品となるわけだから、必ずやその演奏会は彼の音楽世界を多面的に明らかにするものになるだろう。それも私たちだけでなく作曲家自身に大きな刺激となるはずだ。

「コンポーザーズ・プロジェクト・シリーズ」第1回は名作〈夢十夜〉の作曲家であり、日本の音楽界が世界に誇る巨匠のひとりである廣瀬量平である。どのような一夜となるものか、大いに楽しみだ。

日本音楽集団

最近のおもな活動

(1998年1月より)

- 1月25日(日) 「新春邦楽のつどい」に出演 京都府加茂町あじさいホール
 1月29日(木) 第150回定期演奏会～ごんぎつね・青少年のための 津田ホール
 1月31日(土) 愛媛県伝統芸能「ふれあいコンサート」 御荘町文化センター
 2月1日(日) 宇和島公演～新春コンサート 宇和島市庁舎ホール
 2月3日(火) 千葉県立九十九里高等学校音楽鑑賞会
 2月5日(木) 関市文化会館音楽鑑賞会 関市文化会館
 2月7日(土) 山梨県牧丘町公演 牧丘町民文化ホール
 2月8日(日) 長野オリンピック文化芸術祭'98日本の響きシリーズ
 長野県松本文化会館大ホール
 2月25日(水)、26日(木) 愛知県犬山市中学校音楽鑑賞会 犬山市民文化会館
 3月7日(土) 葛飾区立立石中学校音楽鑑賞会
 3月21日(土) 三田親と子の劇場 三田市市民会館大ホール
 3月22日(日) 岸和田おやこ劇場 岸和田市立文化会館大ホール
 3月28日(土) 小さな音楽会第12回 昭島市民会館
 4月30日(木) 都立東村山西高等学校音楽鑑賞会 ルネこだいら
 5月18日(月) 第151回定期演奏会～コンポーザーズ・プロジェクト・シリーズⅠ
 廣瀬量平氏からのメッセージ<雪舟讃> 津田ホール

日本音楽集団

今後のおもな予定

- 5月24日(日) 邦楽のしらべ「日本音楽集団邦楽コンサート」(<四季>ダンス・コン他)
 成東町文化会館
 5月26日(火) 横浜市立田奈小学校音楽鑑賞会
 5月29日(金) 平成10年度「芸術祭典・京」 京都コンサートホール(小)
 (天如・夢十夜他)
 6月6日(土) 日本音楽集団演奏会(大津絵幻想他) 新潟市音楽文化会館
 6月10日(水) 音楽鑑賞会「竹取物語」 聖徳大学講堂
 6月12日(金) 福井県内学校公演 敦賀市民文化センター・小浜市文化会館
 6月17日(水) 島根県三刀屋中学校公演
 6月18日(木) 松江市立湖南中学校・開星高等学校
 6月19日(金) 第4回出雲総合芸術文化祭「日本音楽集団&青山恵子演奏会」
 (日本のうた・巨火他) 出雲市市民会館大ホール
 6月21日(日) 入間市公演「竹取物語」 入間市市民会館
 6月22日(月) 葛飾区立原田小学校音楽鑑賞会
 6月23日(火) '98大田音楽フェスティバル 大田区民プラザ大ホール
 第一部=まつり/子供のための組曲・フォルクローレ他
 第二部=糸・華やか/樹冠・箏協奏曲他
 7月8日(水) 第152回定期演奏会～真夏の夜へのプロローグ 津田ホール
 7月22日(水)、23日(木) 青音協20周年記念「子どものための舞台芸術フェスティバル」
 ティアラこうとう
 8月25日(火)～27日(木) 長野県木曾郡鑑賞音楽会
 9月26日(土) 日本の音色でつづる名曲コンサート 滋賀県立文化産業会館
 10月31日(土) 松山市民芸術祭 松山市民会館
 11月1日(日) 文化振興財団設立10周年記念“日本音楽集団と地元学生たちによる
 「新八千代獅子と竹取物語」” 姫路キャスパホール
 11月13日(金) アトリオンおしゃべり音楽会シリーズ「日本音楽集団の邦楽！」
 (<四季>ダンス・コン他) 秋田アトリオン
 11月26日(木) 第153回定期演奏会～秋の総合定期演奏会(企画・構成=吉村七重)
 津田ホール

日本音楽集団

名誉代表 長沢 勝俊

代表 表 田村 拓男

副代表 尾崎 太一

運営委員長 米澤 浩

名誉団員 山田美喜子

坂井 敏子

白根きぬ子

(正団員)

西川 浩平(笛)

西原 貴子(笛)

西原 祐二(七チリキ・笙)

藤崎 重康(尺八・笛)

望月太八次郎(尺八・笛)

★米澤 浩(尺八)

水川 寿也(尺八)

★添川 浩史(尺八)

石田 忠史(尺八)

畦地 慶司(胡弓・作曲)

杵家 七三(三味線)

★簗田 司郎(三味線)

田中悠美子(三味線)

工藤 哲子(三味線)

在原富士江(三味線)

山崎千鶴子(三味線)

坂口 美香(三味線)

田原 順子(琵琶)

石田 さえ(琵琶)

山田まゆ美(琵琶)

吉村 七重(箏)

★宮越 圭子(箏)

熊沢栄利子(箏)

大晶菜穂子(箏)

桜井 智永(箏)

山田 明美(箏)

島崎 春美(箏)

久東 寿子(箏)

佐藤 里美(箏)

梅澤 一美(箏)

城ヶ崎美保(箏)

高橋はるな(箏)

高橋 明邦(打楽器・指揮)

黒坂 昇(打楽器)

★仙堂新太郎(打楽器)

★望月太喜之丞(打楽器)

白杵美智代(打楽器)

立枝 恵子(打楽器)

杉浦 邦雄(打楽器)

稲田 恵(指揮)

三木 稔(作曲)

★秋岸 寛久(作曲)

中島 隆(楽器・舞台)

(準団員)

越智 成人(笛)

加藤 秀和(尺八)

多々良香保里(胡弓)

中山さち子(三味線)

安武由香理(箏)

中垣 雅葉(箏)

桐岡 知代(箏)

嶋崎 光代(箏)

早川 智子(箏)

前川美保子(箏)

丸岡 映美(箏)

田村 法子(箏)

佐藤 容子(作曲)

協力団員 伊藤 惣一

地方在住団員 田嶋恵美子

事務局 霜島 素子

益井 紀恵

監事 丸岡 映美

芹沢 英雄

一九九八年五月一日現在

★印は本年度運営委員

(団友) 清水 義矩

青木 誠 杉浦 弘和

秋浜 悟史 砂崎 知子

荒谷 俊治 芹沢 英雄

稲垣 隆史 高野 文子

大窪 悦子 田嶋 直士

小田切清光 田中 利光

川崎絵都夫 鶴野 和子

川崎 祥悦 藤舎 呂悦

菊地 梯子 藤舎 呂船

楠 知子 仲俣申喜男

鯉沼 昭二 半田 淳子

坂田 進一 廣瀬 暈平

芝 祐靖 風声 晴由

増田 睦実

宮本 幸子

望月 太八

元橋 康男

矢崎 明子

柳家小三治

横山 勝也

吉沢 昌江

デイヴィッド・ロープ

デイヴィッド・ヒューズ

ヘンリー・バーネット

ラニー・シエルダン

王 燕樵

張 曉輝

(日本音楽集団地方支部)

道東支部 谷藤彌

竹馬亘

水戸支部 齊藤幸山

山梨支部 郷兎

長野支部 佐藤幸字山

新潟支部 飯吉正山

愛知支部 山田孝子

長崎支部 牧山雅葉郁

熊本支部 古川安春

渡辺治子

長崎支部 牧山雅葉郁

熊本支部 古川安春

箏

二十絃箏

箏を愛するすべての人の繊細な感情を忠実に音に表現するために、楽器の本質を追及した箏

日本音楽集団推薦

琴光堂和楽器店

東京都目黒区碑文谷2-9-15 TEL (3792)8481 FAX(3792)8437



アイ・エム・エス ● 楽器リース ● 保管 ● 移動 ● ステージ・スタッフ派遣

〒167 東京都杉並区上荻 2-3-4

ゆうでんビル

PHONE. 03-3397-2292

FAX. 03-3397-7728